

学校授業タブレット化・Forms進捗管理案

タブレット授業 × Google Forms / Microsoft Forms による学習状況の見える化

1. 目的

授業にタブレットを活用し、児童・生徒の学習状況をFormsで記録・集計することで、先生の確認作業を効率化し、理解度や課題提出状況を早期に把握できる仕組みを作る。

紙プリントや口頭確認だけでは、「誰がどこまで進んでいるか」「どこでつまづいているか」「未提出者は誰か」を把握するのに時間がかかる。Formsを使うことで、回答が自動で一覧化され、個別フォローや授業改善に活用できる。

結論：難しいシステムを新規開発しなくても、タブレットとFormsを使えば、低コストで進捗管理を始められる。

2. 全体イメージ

授業実施	タブレットで教材・課題に取り組む	Formsで進捗・理解度を入力	回答を自動集計	先生が個別フォロー
------	------------------	-----------------	---------	-----------

授業後の3分程度でFormsに回答し、先生はスプレッドシートで未提出・理解不足・質問内容を確認する。毎回の入力項目を少なくすることで、先生にも生徒にも負担をかけず継続しやすくする。

3. Formsで管理する項目例

区分	入力項目例
基本情報	学年、クラス、出席番号、氏名、授業日、教科、単元名
進捗確認	課題は終わったか、どこまで進んだか、未完了の内容
理解度確認	よく理解できた / だいたい理解できた / 少し難しかった / ほとんど分からなかった
つまづき確認	分からなかったところ、先生に確認したいこと、もう一度説明してほしい内容
振り返り	今日できるようになったこと、次がんばりたいこと、感想・質問

4. 管理表のイメージ

Formsの回答は自動でスプレッドシートに蓄積される。先生は一覧から未提出者や理解度の低い生徒を確認し、声かけ・補習・追加説明につなげる。

日付	クラス	氏名	教科	単元	進捗	理解度	質問
5/27	1年A組	山田 太郎	数学	方程式	完了	だいたい理解	文章問題が難しい
5/27	1年A組	佐藤 花子	数学	方程式	途中	少し難しい	移項が分からない
5/27	1年A組	鈴木 一郎	数学	方程式	未完了	ほとんど分からない	最初から確認したい

5. 導入メリット

先生側 ・提出確認が楽になる ・未提出者がすぐ分かる ・理解度の低い生徒を早期把握できる ・保護者面談や個別指導の資料になる	生徒側 ・自分の学習状況を振り返れる ・発言が苦手でも質問しやすい ・タブレット操作に慣れる ・学習記録が残る	学校側 ・ICT教育の実践になる ・教員間で進捗共有しやすい ・紙コスト削減につながる ・授業改善のデータが残る
---	--	---

6. 活用例

授業後の理解度チェック

授業の最後3～5分でFormsに回答。つまづきが多かった内容を次回授業で再説明する。

宿題・課題の提出管理

課題完了後にFormsで報告。未提出者を一覧で確認し、声かけを行う。

個別フォロー対象の抽出

理解度で「少し難しかった」「ほとんど分からなかった」を選んだ生徒を抽出し、補習や追加プリントにつなげる。

保護者面談での活用

一定期間の学習記録をもとに、提出状況や苦手単元を説明できる。

7. 導入ステップ

ステップ	内容	ポイント
1. 試験導入	1教科・1クラスで開始	まずは小さく始め、負担を確認する
2. テンプレート作成	教科共通のFormsを作成	毎回ゼロから作らない
3. 管理表整備	回答をスプレッドシートで一覧化	未提出・理解度低めを色分け
4. 先生間共有	担任・教科担当・学年主任で共有	閲覧権限は必要な人だけに限定
5. 全体展開	他教科・他学年へ展開	試験導入の課題を修正してから広げる

8. Forms設問例

1. 氏名
2. クラス
3. 今日の教科
4. 今日の単元
5. 今日の課題は終わりましたか（終わった / 途中 / まだ）
6. 今日の内容は理解できましたか（よく理解 / だいたい理解 / 少し難しい / 分からない）
7. 分からなかったところを書いてください
8. 先生に聞きたいことがあれば書いてください
9. 次回までにがんばりたいことを書いてください

9. 注意点

- ・ 個人情報を扱うため、回答データの閲覧権限を限定する。
- ・ 質問数を増やしすぎず、1回あたり1～3分で回答できる内容にする。
- ・ タブレット操作が苦手な生徒へのサポートを用意する。
- ・ 通信環境や端末トラブル時の代替手段を準備する。
- ・ 先生の管理負担が増えないよう、テンプレート化・自動集計を前提にする。

10. まとめ

タブレット化とFormsによる進捗管理は、学校現場のICT化に相性がよい。特に、授業後の理解度確認、課題提出管理、個別フォロー対象の把握、教員間の情報共有に効果がある。

導入時は、複雑な仕組みにせず「短いForms」「見やすい管理表」「少ない入力項目」から始めることが重要である。